

---

# ネギま！ DESTINI

キッド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネギま！DESTINY

### 【著者名】

キツヅ

### 【あらすじ】

ネギまー以外の魔法と武器を武器にネギまーの世界で暴れまわる

## 輪廻転生（前書き）

ふと思い、ふと投稿  
クレームは受け付けない！

## 輪廻転生

「……は・・・・・ビニだ？

360。真つ白だ

『来たか少年』

・・・・・誰？

『神』

ペーパー？

『それは紙、てか言葉じゃ伝わりにくいやー』

・・・・・光の玉が喋ってる

『おぬしは死んだぞ』

ふーん、死んだんだへえ～・・・・・じゃあここにいる俺何ッ！？

『魂』

どうりで、んで天国地獄どっち？

『輪廻転生』

ふーん輪廻転生ねえ～・・・・・はい？

『納得してんのか戸惑うのかハツキリさせろよ

ふつ、無理！！

『威張るな！』

・・・・・このシャッターは・・・・・何？

『このシャッターの向こうは平行世界に繋がってる  
そうそう、向こうはキツいから少老不死にしてやる  
だつたらんな場所行かせんな、てか少老つて？

『見た目が少ししか老けない』

少しやだ

『行つてこい！』

うわあ！黒い手がわざわざ来たあ！結構キモイ

『ちなみに世界はネギまーだ』

今言つか！？

魔法使いすんだー。武器

言い切る前にシャッターの奥に引つ張り込まれました  
ネギま全巻持つてて良かつた

## プロローグ（前書き）

最初に出る原作キャラは意外なあの人

思いつきで考え、色々変わりますが暖かい目でお願いします

## プロローグ

「ここはどこだ？」

周りは一応明るいが暗い、夜かな？

あれは家かな？

人の気配はしないし、見た目からすると廃工場かな、住むのに問題はないな

お、鏡だ

「嘘だろ、背え縮んでるし！しかも、格好や顔がFate/Zeroのギルガメッシュユージヤン！ガチで金色の鎧装備してるよ」

声までは違つたか

武器は……取り出せた。まだ特訓がいるな

魔法はどうだ？

「プラクテ ビギナル火よ灯れ」

無反応

杖は拾つた

だから試した

「プラクテビギナル火よ灯れ！」

「プラクテビギナル火よ灯れ！！」

30分後

「プラクテビギナル火よ灯れ！！」

もう、はああああ  
バサア

へ？

翼生えたああああ 桜咲みたな翼にカラーは黒

「プラクテビギナル火よ灯れ！！！」

「もうやだ、別の呪文唱えてやる

ヒヤド！」

ピヤツ

出来たよドラクエ出来たよ！次

「ブリザード！」

FFも出来ました

じゃあ次

「レイザス」

・h a c k も出来たよ

「ザケル」ガッシュも出来たよ

「荒れ狂う流れよ、スプラッシュ！」

ドドドドド

テイルズも！ならば

「アイスマスク『盾』《シールド》」

フェアリー テイルも！

やつふうー「これは凄いぜ！

てかこじどこ？

「ほら、じつちこっち

「待つてよお姉ちゃん

何奴！

「誰！？」

「それはこっちの台詞だ」

「私はポヨ・レイニーディ

「ザジレイニーディです」

いきなり原作キャラ来たあ！

てことはここ魔界！？

そうだ名前・・・・昔ゲームで使ってたほうが、ギルガメッシュ

が、じうじょつ

良いよね……

「ギルガメッシュよろしくな」

見た目重視！

理由はなんとなく

「」にって魔界？」

「なに当たり前の事いつてんの」

「君、変わった翼ですね」

変わつてんの！？

「あなた」に住んでんの？」

「まあな」

「たしかに変わった翼ね

村に来る？」

変わつた変わつたつるせこ

「良いのか？」

「モチロン。見た目的にザジと同じ年ね、私の」ことは姉がつくなら  
なんでも良いわよ

「じゃあボク姉」

「「早」」

「」の翼つて変わつてるの？」

「私たちの翼はこんな感じだから」  
かつけええ！

5分後

「」がボク姉達の村？」

「やつ」

グウ

「何の音？」

グウ♪

「また」

「俺の腹の虫だ」

「お腹すいてんだ」

恥ずかしいから顔を逸らす

「家に来る？」

「へ？ 良いのか？」

「別に良いです」

「・・・・・ お邪魔します」

レイニー・ディ家

「ただいま」

「ただいま」

「・・・・・ お邪魔します・・・・・」

「ポヨ、ザジ、この人は？」

あら、変わった翼ね

もう慣れたよ

「はじめましてギルガメッシュユつて言います」

「礼儀正しいわね」

「メイ・レイニー・ディです」

レイニー・ディ家つて美人揃いだな

「でしょ」

「声に出してました？」

「ええ」「／＼／＼／＼／＼

ヤバい恥ずい

俺がアタフタしてると

「可愛い」

「ふえ」

「とりあえず上がって、今じゃ飯にするから

「 「 「 「 いただきます」 「 「 「

「ギルガメッシュ君お家は?」

「外れに」

「あれ廃工場でしょ」

否定しない

「なら家に住まない?」

へ?

いまこの人なんて、家に住まないか・・・・・だと?

「いえ、でも、その・・・・・」

「なに遠慮してんの、遠慮しなくていいよ

ならば家に住めーーー!」

「ポコ姉命令かよ!

つてうわあああ

「あら、すっかり仲良しね

そんなメイさんを尻目に俺はザジとポコ姉にいじられてた

レイニー・ディ家での生活が始まった

原作の地 真帆良へGO（前書き）

訂正

## 原作の地 真帆良へGO

レイニー・ディ家にお世話になつてからはや5年いろんな事があつた。村人に変わつた翼つて言われたり変わつた翼つて言われたり変わつた翼つて言われたり変わつた魔法つて言われたり翼多過ぎだろ

その後ザジやボヨ姉と翼の出し入れの特訓したり身体能力の特訓したり、勉強したりめんどくさかつた

ちなみにザジは麻帆良に行きました

「暇だ」

ザジが麻帆良に行って一年経つたから原作はそろそろか  
「ギル」

そつそつ、レイニー・ディ家人にはギルガメッシュュじや長いからと言つ理由でギルつて呼ばれるよつになりました。

「なに? ボヨ姉

「麻帆良に行くか?」

何ですと?

「学費とか、その・・・いろいろあるし」

「遠慮しない、家で出してやるから遠慮ばかりしてると損するだ」

「じゃあお言葉に甘えて」

「ほい制服」

なんでもう制服あんの?

「実はもう決定済み」

「拒否権無いんかい!」

「じゃ、行つてらっしゃーい

地上

「眩しい。何？ 麻帆良駅？」

出たとこ当たりかよ！

そうだ学園長室に行かないと

わかるけどまつすぐ行つたらおかしいから誰かに聞こう

「すみません」

「何だい？」

タカミチだつたー！！原作キャラ三人目！

「あの学園長室はどこですか？」

「もしかして転校生？」

学園長室なら中等部の校舎内だよ

良かつたら案内しようか？」

「お願いします」

なんで学園長は中等部に学園長室つくんだよー

「ついたよ」

なんて事考えてる内に学園長室についたよ

「学園長失礼します」

「失礼します・・・・・出たあーぬらりひょん！」

「慣れたからよいわい

君の教室は3 Aだよ

高畑君案内しなさい

(女子中等部のな)

「わかりました

(学園長本気ですか?)

「そう言えば名前は？」

「ギルガメッシュです」

「スゴイ名前じゃのう。

ラストネームはなんじや？」

ラストネーム考えてなかつた！

ん？ そうだ！

「サクリファイスです。

ギルガメッシュ・サクリファイスです」

「じゃあサクリファイス君案内しよう」

さて、原作に介入できるかな？ 男子中等部だから難しいかな？

その頃学園長は

サクリファイス 生け贋 か

あやつからは妙な感じがしたのう。

刹那君にでも頼んでみるかの。

そしてギルガメッシュ・サクリファイスは  
「ついたよ」

またいろいろ考えてる内についたみたいだな

「ちょっと待つてね」

何だろ？

「じゃあね

声がかかつたら入つてね

「わかりました」

嫌な予感

「サクリファイスさんどうぞ」

「行くか

ガラツ

ピシャツ

なんだよ見渡す限り女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子女子

女子女子女子

あのジジイ！

ダダダダダダ

朝倉 side

「転校生かどんな娘だろ？」

「ね、バル！」

「確かにね～」

「サクリファイスさんどうぞ」

サクリファイスか、変わった名前ね  
とにかくキタキタ

ガラツ

ピシャツ

ダダダダダダ

「バル、顔見えた？」

「少ししか無理だつた」

「なんで閉めて走つてつたんだろうね」

ギルガメッシュユ side

バン！

「おいこりジジイ！ なんで女子中等部なんだよー。男子中等部じゃないのか！？」

「あつとるよ」

「俺は女じやねえ！ 第一

「高畠君、連れて行きなさい」

「わ、わかりました」

「おいこら話は終わってねえぞジジイ！」

そのまま高畠先生に引きずられて女子中等部3 Aに入った

「タカミチどうしたの！？」

「さつきの転校生が逃げたから連れてきたんだよ」

「ふすう」

「タカミチその人男性だよ！？」

「学園長命令さ」

こんな形で原作の仲間入りするとは思わなかつたわ！

「あ、ザジちゃん。

よ」

「ザジさんと知り合いでですか？」

「そんなとこ」

「サクリファイス君、自己紹介を「

めんどくさい

「ギルガメッシュ・サクリファイスだ」

「だけですか？」

「以上だ」

「ハイハイハイ！

じゃあ、新聞部朝倉和美インタビューします

うわあーガチで？

「まずお名前は？」

「今言つたよな

ギルガメッシュ・サクリファイスだ

「ファーストネームは？」

「ギルガメッシュ」

「好きな物は？」

「飛ぶこと？」

「何故疑問系？」

「嫌いな物は？」

「特に無いが、苦手ならある」

「それはなに?」

「ファッショーン」

「気になる人は?」

「????」

「何意味分からないつて顔してんの」

「そのまんまだ」

「特技は?」

「無い」

「インタビュー終わり」

やつと終わつたか

「担任誰?」

「僕です」

・・・・・

「何歳?」

「10歳です」

「法律的にアウトじゃないのか?」

まあいいか

コンコン

「ネギ先生。今日は身体測定ですよ。3 Aのみんなもすぐ準備してくくださいね」

出るか

「失礼通してもらいます」

「はい、ギルガメッシュ君」

「あ、そうでしたここですか!? わかりましたしづな先生で、では皆さん身体測定ですので・・・えと、今すぐ脱いで準備してください」

ジー

「ネギ先生のエッチ〜ツ」

「うわ〜ん」

ば～か

「先生ー 大変やー

まき絵が・・まき絵が

「何！？」

「まき絵がどーしたの！？」

「わあ～～～！」

「お前ら、自分の格好見てから扉開けろよ」

吸血鬼、エヴァンジェリンか  
関係無いよな

主人公設定 + （前書き）

ネタバレあり  
見るか見ないかはあなた次第

## 主人公設定 +

名前

ギルガメッシュ・サクリファイス

生前 荒野あらの 銀ぎん

本来ならばコンビニの店員が死ぬはずだつたのに死んだ  
神曰くシャッターをぐぐる前に思つてたキャラになるらしい。（声  
は変わらないらしい）

少老のため、あまり老けない。身長は普通に伸びる

ギルガメッシュのゲート・オブ・バビロンが使える  
剣なども飛ばせる

魔法はネギま！以外のなら使える

ザジに好意を抱かれているが本人は気づいていない（これからも増  
える可能性大）

魔族の翼は普段は隠している。地上で翼を出すときはスカーフで口  
元と頭を隠す

顔の目の下にザジの右田の模様の下半分が両方にについている  
翼を出すと上にも模様が出る

名前 不明

通称 ライダー

こいつも転生者

京都でフェイト達といふ主人公を見て同じ転生者だとわかり、少し  
話す、だがフェイト派で何度も戦う

武器はF a t e / Z e r o のリーダーと回り

尾行？（前書き）

なんかグダグダ？よくわからん  
まあどうでも

## 尾行？

今日は休み。

だからギルガメッシュ装備で歩いております。周りの視線？ジャケット着てつからばれない。

ちなみに部屋は女子寮管理室だった。

ん？あれはネギに神楽坂？何してんだ？一人がいる先を見ると絡繆茶々丸がいる

そうか、あのシーンか介入しよう。

では、空から見るかなジャケットを脱ぎ、翼をだし、飛び

「『光の11矢』ゲート・オブ・パビロン」

丁度良い、王の財宝を試すか

「……ふん」

ドジドジドジ

すげえ砂煙

「助けてくれたんですか？」

ふむ、正体はばらさない。からな理由聞くか知つてるけど

「あなたは何故二人に追われていた？」

「私達が敵対しているからです」

原作通り

「では」それだけ言つて絡繆茶々丸は飛んでいった

「カモ君……なに？あれ？」

ふむ、降りてやるか

「あなたは誰ですか？」

いきなりそれか

「答える義務はない」

「兄貴！コイツは悪魔だ！エヴァンジョンの仲間つすよーーー！」

「つるさいぞ雑種」

「さっきの大量の剣はアナタですか？」

「答える義務はない。」

貴様達とあのガイノイドはどういう関係だ？」

「敵だよ！」

「ふむ、それだけか？雑種」

「それは」

生徒と教師だろ？

「少年……貴様はどんな覚悟で魔法を放つた？」

「…………」

だんまり…………か

「中途半端な気持ちなら行動するな。

勝つのは覚悟を決めた奴だ」

これだけ言えば良いだろう

「何かあればこれに連絡しな、相談ぐらいなら受け取るが」

ネギ side

あの黄金の鎧を着た人に言われた。「中途半端な気持ちなら行動するな」それにはまだ黙ることしかできなかつた  
自分の覚悟……まだよくわからない  
カモ君は敵つすよ敵！って言つてた  
後、最後に渡された数字の書いてある紙。携帯番号とは違うみたい  
だけど

とりあえずはこれからについて考えよう

ギルガメッシュユ side  
さて、

「我に何か用かな？」

「貴様いつの間に！？」

ちなみに翼はしました、スカーフは流石に外さない

「物騒な物を向けるな」

「しました！」

龍宮からライフルを奪う「我、汝に問う。

貴様は何のために引き金を引く

龍宮 真名

「ふむ、難しい質問だな。

金の為かな？」

金の為……か……

「大切なパートナー

言い換えれば最愛の人死んでからかい？

そんな発言するのは

「貴様、どこまで……」

「魔眼をもつ半魔人の巫女スナイパー 龍宮真名<sup>ハーフ</sup>。

ぐらいかな」

「お前は一体……」

「他言無用だ

俺は 転校生のギルガメッシュ・サクリファイスだ

「と言つことはお前は魔族」

「そ。

俺のことはギルで良い

「では、私も真名と呼んで貰おうか」

「了解真名。じゃあな」

「ああ、学校でな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1926ba/>

---

ネギま！ DESTINI

2012年1月8日18時51分発行